

そうだ、国内を移動しよう！と思ったら…

パラグアイで活動・生活する中で、必要となるのは、“移動”です。私の職種は、他の3市の家畜飼育隊員と異なり、バイク等の使用が認められていないため、普段のエンカルナシオン市内の移動は、徒歩または市バスで、市外に活動で行くときは、県庁所有の公用車もしくは都市間バスで移動します。

北海道では、自転車に乗るのが好きで最長一日100km走行したり、車であちこち行ったりすることが多かったため、こちらでの久しぶりの徒歩とバス移動に悪戦苦闘しています。

悪戦苦闘の理由は…

まず、徒歩での生活で未だに慣れないのが、暑さです。

こちらは、夏の体感温度は35度以上が当たり前、冬でも30度近く感じることも多くあります。お昼から日が暮れるまで、暑さが続きます。

配属先へは片道徒歩15分程度ですが、いつも通勤だけで汗だくで、家に帰るとぐったりします。

また、エンカルナシオン市は都市だけあって、車も多く、路上は、縦列駐車当たり前で、交差点には信号がない場所も多くあります。

そのため、道路を横断するときは、左右の確認に気を付ける必要があり、日本の時以上に気を張ります。

歩くのが辛いときは、バスを利用したいと思いますが、パラグアイでは、バス停はあっても、時刻表はありません。行き先も運転手さんに確認しなければ確実ではないため、自分の行きたい方向のバスがいつ来るのかあてもなく待ち、自分の行きたい場所を通らないようであれば、また待ちます。

暑い中いつ来るかわからないバスを待つだけでも、体力を奪われるので、バスもなかなか乗る気にはならず、結局徒歩で移動することが多くなります。

ちなみに、エンカルナシオンの市バスにエアコンはついていません。

運賃は乗車時に支払い（約50円）、好きな場所（バス停のない場所）で降りることができます。

市外にカウンターパートと移動する時は、県庁の公用車を使うことができます。

公用車を利用すると、到着時間をある程度コントロールできるため、スケジュール調整もしやすく大変ありがたいです。



(写真は、県庁の車でカウンターパート達と県外にいったところ)

県庁には、色々なタイプの公用車がありますが、田舎の道も走行できるよう、写真のような車種が主要です。

イタプア県内は、主要道路はコンクリート（アスファルト？）ですが、田舎の道路は、石畳や未舗装の土道がほとんどです。



写真は、土道（写真左）と石畳（写真右）が合わさった道の様子。

石畳であれば、雨の日でもある程度の走行は可能ですが、土道では、北海道の雪道のように、ぐちゃぐちゃにぬかるみます。晴れた日でも、砂が舞うため、窓を開けていると、車内が砂だらけになります。

しかしながら、車での移動は、徒歩やバスとは比較できない程便利で、活動に不可欠です。

これから、パラグアイでの最後の夏が始まります。

暑さには負けそうな気がしますが、安全に日々気を付けて活動していきたいです。